

28P2-am004

雪見草におけるメラニン産生阻害作用

○荒川 真希¹, 森山 正大¹, 成 英次¹, 坂田 修¹, 上原 静香¹, 林 昭伸¹(¹コーセー研究本部)

【目的】雪見草(ミゾコウジュ)は、本州・東アジア・インド・マレーシア・オーストラリア北部に分布する2年草である。中国ではレイシソウの名称で全草を薬用にし、咯血や吐血、血尿、腹水などに対して用いられている。これまでに我々は、皮膚に対する効果として、抗酸化作用とメラニン産生阻害作用などを確認している。そこで、雪見草におけるメラニン産生阻害作用のメカニズムの解明を本研究の目的とした。

【方法】雪見草抽出物におけるメラニン産生阻害作用メカニズムは、ヒト正常メラノサイト及び三次元皮膚モデルを用いて行った。チロシナーゼ遺伝子の発現量はRT-PCR法を用いて検出し、タンパク産生量はウェスタンブロットティング法により検出した。

【結果及び考察】雪見草抽出物の添加により、ヒト正常メラノサイトのメラニン産生が抑制されることが確認された。一方、チロシナーゼのタンパク産生量に変化はみられなかった。また、雪見草抽出物は、*in vitro*におけるDOPA-チロシナーゼ反応を阻害しなかった。以上の結果から、雪見草抽出物のメラニン産生阻害作用は、チロシナーゼの活性阻害作用やチロシナーゼタンパク質の産生抑制以外のメカニズムによるものであることが考えられた。